



空港問題解決に向けて
平成3～6年

空港問題を話し合いで解決を

成田空港問題 シンポジウムの開催

膠着する空港問題を話し合いに
よって解決する気運は、平成2年
1月30日、空港反対同盟熱田派と
江藤隆美運輸大臣(当時)との対話
がきっかけでした。
その後、公開討論によって空港

問題の解決を目指すために、自治
体や住民代表で組織する地域振興
連絡協議会(村山元英会長)が同年
11月1日に発足。そして、国は
「いかなる状況のもとにおいても強
制的手段をとらない」と確約し、成
田空港問題シンポジウムが開催さ
れることになりました。

シンポジウムは、隅谷三喜男氏

長谷川録太郎氏が6選を果たした平成3年は、市の最重要課題であった空港問題が平和的解決に向けて大きく前進した年でした。

11月21日、成田国際文化会館で開催された第1回成田空港問題シンポジウムは、昭和41年7月4日の新空港建設の閣議決定から25年に及ぶ長い空港問題の歴史の中で、それぞれの立場の異なる人々が初めて一堂に会して意見発表をし、対話するという画期的なもので全国の注目を集めました。



第1回成田空港問題シンポジウム



空港問題の解決への道を探って開催された成田空港問題シンポジウム(平成3年11月21日)

約600人の傍聴者が熱心に聞き入る

ほか4人の学識経験者(後の隅谷調査団)主宰のもと、国、県、空港公団、反対同盟などが参加し、15回にわたって行われました。これまでの空港問題の歴史的経緯などさまざまな観点から意見発表や対立構造を解消するための建設的な提言がなされました。
その結果、最終回の平成5年5月24日、次の3項目の調停案が示されました。
力による対決に終止符を打つため、土地収用採決申請を取り下げ、二期工事の平行・横風用滑走路計画の白紙撤回。空港問題解決のため新たな話し合いの場を設けるとしました。そして、参加者すべてがこの案を受け入れ、空港問題は円卓会議に舞台を移すこととなりました。

空港問題の解決の道を探り 円卓会議を開催

円卓会議は、平成5年9月20日から12回にわたって開催。キーワードは「共生」でした。周辺自治体



闘争から共生へ。第1回成田空港問題円卓会議(平成5年9月20日)

や住民団体も加わり、21世紀に向けて空港と地域との共生の道が話し合われました。
県は現状把握のため、空港周辺地域把握調査「騒音地区居住者アンケート調査」、空港関係移転者アンケート「などを実施。
また、運輸省は、空港と地域との共生に関する考え方を、「共生を指した今後の空港づくりの考え方」などを示し、それに対し自治体、地域住民、反対同盟などが活発な質疑を重ねました。
平成6年10月11日、最終回となった会議で隅谷調査団から所見が発表され、今後は共生懇談会後の成田空港地域共生委員会が設置されることになりました。

京成成田駅東口整備事業

歩行者地下通路が開通

京成成田駅と東口広場を61mで結んだ地下自由通路は、平成4年7月23日から通行できるようになりました。平成元年から工事が行われ、総事業費は15億円。広場から駅構内までは高低差約20mあり、上り専用のエスカレーター4基が設置されています。

この通路の開通により、歩行者の利便と駅周辺の交通混雑の緩和に大いに役立ちました。



歩行者デッキやバス乗降場などが整備された京成成田駅東口広場



開通した京成成田駅東口地下道（平成4年7月23日）

心のかよう「福祉都市」を目指し

お年寄りや障害者などの生活や安全を守る新制度がスタート

「うるおいのあるふるさとづくり」を進める長谷川市政は、特に在宅福祉の推進を目標に「心のかよう福祉都市」を目指し、寝たきりのお年寄りなどへの紙おむつ給付、日常生活用具のレンタル制度、福祉タクシー料金助成限度額の引き上げ、心身障害者（児）への福祉手当の支給など、制度の充実を図りました。

また、21世紀の高齢化社会を予測し、40歳以上の市民を対象に高齢化対策意識調査を行い、平成6年に「成田市老人保健福祉計画」を策定。地域に密着した効果的な在宅支援体制をつくりサービスを提供する総合福祉センターの整備を図ることになりました。



旅行や通院に利用の多い福祉カー（平成4年）

無煙・無臭装置などの最新技術の導入、告別式・通夜、法事もできる総合的な斎場として、成田市と八街市、富里町（現富里市）の2市1町の共同出資で建設されたものです。八富成田斎場は、公園的施設を取り入れ従来の火葬場のイメージを一新した、温かさや安らぎを感じさせる火葬場として開場しました。

八富成田斎場

2市1町の共同出資で開場



完成した八富成田斎場（平成4年12月1日）